



ほっとするね
緑の府中

第 61 号

指導室だより

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町 2-24
電話 042-335-4063

平成20年度 東京都教育実践発表会において

英語活動の授業を公開発表する

府中市立武蔵台小学校

平成20年度の東京都教育実践発表会が、10月1日（水）の都民の日に東京都教職員研修センターにて行われた。

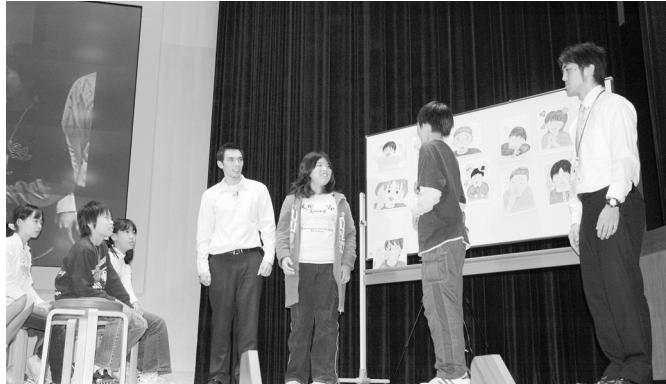
都民に向けて特色ある教育活動を展開している学校からの教育実践の公開発表が行われ、多くの都民や教育関係者が出席した。午前の部では、以下の発表が行われた。

1 部活動等の指導・成果発表

小・中・高校の部活動で優れた成果を挙げている学校から発表があった。小学校では、合唱の目黒区立大岡山小学校、中学校では、吹奏楽の演奏で中央区立日本橋中学校、高校からは相撲部の活動として全国大会にも出場するなど成果を挙げている東京都立足立新田高校からそれぞれ素晴らしい発表があった。

2 「小学校の外国語（英語）活動」公開授業

続いて「小学校の外国語（英語）活動」の公開授業が、武蔵台小学校 6 学年児童を対象に、担任白尾亮一郎教諭、ALT Charlton Swearingen先生の指導の下に行われた。



3 本時のねらい

- ①相手の話をよく聞き、表情やジェスチャーを交えて、自分の感情や状態を伝えようとする。
- ②ALTの先生を通して外国の様子や身振りなどに興味をもち、日本との違いに気付く。

4 本時の展開

- ①あいさつ Greeting
- ②ウォームアップ Warm up (「I have a joy」「Simon Says」)
- ③活動 1 Activity 1 (インタビューゲーム
「I am～」等)
- ④活動 2 Activity 2 (スキット発表会)
- ⑤あいさつ Farewell

5 評価

- ①表情やジェスチャーを交えて、感情や今の体の調子を伝えようとしている。(観察・発言)
- ②外国の様子や身振りなどに興味をもち、日本との違いについて考えている。(観察・発言)

◆All Englishで授業が進められていたが、小学校の6年間英語に触れている6年生なので、その成果が十分に發揮されていた。特に、憶することなく積極的に発話したり、かつ表情豊かに楽しそうに活動に取り組んでいる姿はとても素晴らしかった。



1 単元名「楽しく伝えよう」

2 単元のねらい

- ①表情やジェスチャーを交えて、相手に自分の感情や状態を伝えようとする。
- ②ALTの先生の話を通して、外国の様子や身振りなどの文化に興味・関心をもつ。

3 公開研究協議会

「小学校における外国語活動の

充実をめざして」

助言者 文部科学省教科調査官 菅 正隆氏
 協議者 府中市立武蔵台小学校 野澤 由美副校長
 府中市立武蔵台小学校 白尾 亮一郎教諭
 三鷹市立小学校 A教諭
 足立区立中学校 B教諭



■研究協議

白尾 本時は、誰とでも挨拶が出来ることと、スキット作りと発表がメインだった。発表では、子どもたちが大きなジェスチャーで気持ちを表現していたので、今日が一番よかったです。Charlton先生とは、朝、授業の打ち合わせをしている。本校では、担任がT1、ALTがT2で行っている。T1とT2の意思疎通がうまくいっている。

野澤 本校の英語活動については、平成15年度に小中連携教育の研究を始め、その時に英語活動がスタートし、週1時間で行っている。この6年生は6年間やっている。指導方針としては、聞く・話すを重視し、文字を書くことはしない。できるだけ子どもたちが英語に触れるということで、朝学習の時間にビデオを見て一緒に表現したり、清掃時間に音楽（英会話たいそう）を流したりしている。授業では、All Englishをめざして取り組んでいる。担任が中心になって授業を進め、ALTはNative Speakerの役割をしている。

A教諭 All Englishでの授業だったが、よくできていた。T1とT2の連携がとてもよかった。「Simon Says」は、スピードがあり、子どもたちもALTの言葉をよく聞き、集中していてよかった。スキット作りでは、どのような観点で作らせたのか。

白尾 96の基本文があり、音楽付きのテープを清掃の時間などに流している。今日もその96の言葉を基本的に使ってスキットを作っている。

B教諭 モデルをALTが行い、担任が進行役ということで、T1とT2の役割分担がよかった。子どもたちが次に何をやるのか見通しをもって取り組んでいた。スキット作りは中学校でやるので、小学校でやるとは思っていなかった。コミュニケーション能力をはぐくむのによい。中学校的英語科の授業では、苦手な生徒を引き上げるための努力をするが、英語活動ではきちんと発話できない子にはどのように指導しているのか。

白尾 英語は、楽しいものということを大事にしている。そのために担任が話せる雰囲気を作り、自分から発話できるように活動を組んで促していく。今の段階ではインプットが大事で聞くことが多いが、スキット作りなど通して相手の前でPresentationできることをめざしている。

野澤 無理強いはしない。聞いているうちに話したくなるようにしていく。周りが認め合う雰囲気の中でやっていく。子どもの内面から出てくるようにしている。英語が言えなければジェスチャーでも身振りでも使い、やっているうちにだんだん発話や表現が十分にできるようになる。

B教諭 みんなでやっているうちにというが、出来ない部分を練習させるようなことはないのか。

白尾 これができるから練習をさせるという考えはない。ただ小さい声のときにもう少し大きな声でといった支援はする。緊張を解いていくことを大事にしている。

B教諭 中学校の英語科と英語活動の違いは、小学校に英語活動が導入され中学1年の入門期の生徒の様子が変わってきた。教科書を扱う前に音声中心の授業をやるが、それが新鮮でなくなっている。中学では文字が入り音声指導から文字指導に入る。ターゲット・センテンス（目標文）がある。受け身、過去形等があるが、目標文を押さえながら音声もやっていく。スキット作りは中学でもやっている。聞く・話す・読む・書くの4領域をバランスよく伸ばす。

■指導講評 文部科学省教科調査官 菅 正隆氏

英語活動の指導は、英語が出来る出来ないでなく、クラスマネジメントのうまい教師はうまい。全国どこでも他の教科できちんと指導できる教師は、英語活動の指導でも力を付けている。学習指導要領では、担任が指導することを重視している。◆1対1対応、例えば、りんごのAppleが出てこなければ、丸い、フルーツなど知っている言葉を使って言える。語数を増やすのも一つだが、ジェスチャーなどで置き換えることで自分らしい表現をする。◆TTの関係がうまくいっていた。担任が子どものリーダーの如くRepeatしていた。ALTはNativeで語感が伝わる。TTがそれぞれの役割を果たしていた。◆高学年になると仲間が細分化してくる。英語を通して日本語だと聞きにくいことも英語活動の中では、自然に聞けるので、相手との間にフィルターが下がり、よく理解し合えるようになる。クラスが和やかになる。クラスづくりに役立つ。コミュニケーションの力で相手が分かれば、心を開く。英語活動を通して学校づくり、学級づくりに役立つ。◆中学校の導入期をどうしていくかが課題。小学校よりも中学校が大きく変わらなければならない。小中の連携は、もう目の前に来ている。何をねらっているか共通理解を図る必要がある。コミュニケーションの力を向上させることである。◆5、6年で70時間、大量の情報を入れ過ぎてもこなせない。英語活動は英会話ではない。コミュニケーションの素地をはぐくむことである。言語力の育成の一つとして外国語活動を取り入れていく。



児童生徒の心と体の

府中市立府中第十小学校

校長 山田 順子

3 体の健康は、意欲を

児童会活動として、あいさつ運動をしたりするなどの活動に広がればよいと考える。

子どもたちの心の健康づくりにとって、まず大切にしなくてはいけないことの一つがあいさつであるといえる。

体の健康づくり、体力の向上に繋がる活動として大切にしたい取り組みは、めあてをもつて取り組む学習である。これは、をもとに、自分にあつためあてをもち、そのめあてに向かって、自ら意欲的に取り組む力を育てることがある。

日頃の体育の学習だけでなく、学校全体で取り組む体育的な活動でも同様である。体力テストの結果を見ても明るい教師は、一人一人の子どもの違いを捉え、少しでも子どもが自分の決めためあてが達成できたときには、それを認め、次の

らかであるが、体力については、個人差がかなり大きい。また、運動経験や興味・関心などもかなり個人差があるといえる。そのような状況の中、いろいろな運動に取り組まるとき、一斉の課題で行うと、運動の得意な子だけが活躍をしたり、楽しく学習したりしている反面、運動が得意でない子は、意欲を失つてしまったり、楽しめなかつためあてに向かってまた取り組めるよう支援していくことが大切である。運動があまり好きではない子どもでも、今までより速く走れたとか、できなかつた鉄棒などの技ができるようになつたなどの実感が得られれば、また頑張ろうと思うようになり、その積み重ねが、一人一人の子どもの体力の向上にも繋がつていくといえる。

卷之三

りしている状況が見られる。それを続けていては、子どもがどんどん意欲をなくし、体育嫌いや運動嫌いの子どもをつくってしまうこともある。

そうしないために、どの子にも運動の楽しさを味わわせ、自体の健康づくりにとつては、子どもの意欲をどう引き出していくかが重要なことである。その意味でも、『めあてをもって取り組む学習』が、日々の体育の学習のなかで充実してほしいと願っている。

1 大切にしたい外遊び

学校において、全児童生徒の体校に届いているが、その結果を力テストが実施された。すでにその結果と分析については、学校に届いているとはいえなかつた。みると、特に本校の低、中学年の児童においては、個人差はあるても、全体的には大きく体力が低下しているとはいえた。過去の記録が残っていないので、以前と比べることはできないが、一ついえることは、本校の低、中学年の子どもたちは、大変よく外遊びをしているということである。

休み時間になると、校庭からは子どもたちが元気よく遊ぶ声がたくさん聞こえてくる。決して広いとはいえない校庭で、ボーリング遊びや鬼ごっこ、鉄棒・遊具など、校庭いっぱいに広がつて遊んでいる姿が毎日のように見られる。また、放課後の校庭もとてもにぎやかである。学童クラブ、放課後子ども教室、そして、下校後自由に遊びに来る子

2 心の健康は、あいさつから

どもたちでにぎわっている。とにかく、体をよく動かしている。やはり、子どもたちの体力と外遊びはかなり深い関係があるといえるだろう。また、外遊びでは、集団で遊ぶことも多くなるので、心の面での発達にもプラスになることが多い。

大切にしていることは、あいさつである。本校の子どもたちはなかなか自分から進んであいさつをすることができない子が多く、気になっていた。

た。

いくには、まず、大人からかりとあいさつをするようにしていきたいと考えた。
そこで毎朝、私自身が正門立ち、登校してくる一人一人声を掛けることを続けている。あいさつを自分からする子もしづつ増えてきているが、まことにちらがあいさつをすると、いさつを返してくれるようにな

体力テストの結果を見ても明らかであるが、体力については個人差がかなり大きい。また、運動経験や興味・関心などもかなり個人差があるといえる。そのような状況の中、いろいろな運動に取り組ませるとき、一斉の課題で行うと、運動の得意な

たときには、それを認め、次の
めあてに向かってまた取り組め
るよう支援していくことが大
切である。運動があまり好きで
はない子どもでも、今までより
速く走れたとか、できなかつた
鉄棒などの技ができるようになつ
たなどの実感が得られれば、ま

子だけが活躍をしたり、楽しく学習したりしている反面、運動が得意でない子は、意欲を失ってしまったり、楽しめなかつたた頑張ろうと思うようになり、その積み重ねが、一人一人の子どもの体力の向上にも繋がっていくといえる。

卷之三

りしている状況が見られる。それを続けていては、子どもがどんどん意欲をなくし、体育嫌いや運動嫌いの子どもをつくってしまうこともある。

そうしないために、どの子にも運動の楽しさを味わわせ、自

体の健康づくりにとつては、子どもの意欲をどう引き出していくかが重要なことである。その意味でも、『めあてをもって取り組む学習』が、日々の体育の学習のなかで充実してほしいと願っている。

II国際交流活動II

自分の夢に向かってあきらめずに努力しよう

府中市立府中第七中学校

9月12日(金)、府中第七中学校(村本洋一校長)において留学生との国際交流活動が行われた。

今回は、財団法人国際教育映像協会の「児童生徒のための異文化理解・国際交流のすすめ」という教育プログラムの一環として、パキスタン人の東京大学院生マレク・ミロスワバさん、韓国人の早稲田大学院生のキム・スンシムさんの3人の留学生が訪れ、一年生3クラスと親しく交流をした。

◆ パキスタン

○言語 パキスタンでは4つの州に分かれ、それぞれによって言語が違う。言語が違うので困る。学校では州の言語を話すことが禁止され英語で話す。私は普段ウルドゥ語を話しているが、学校では英語で授業を受けた。子どもの頃は、 苦労したが、今は樂をしているし、幸せだ。



パキスタンの伝統的な衣装を身に付ける

○スポーツ パキスタンの代表的なスポーツは、クリケットというスポーツである。野球に似ている。ボールは木材で皮が張っている。固いので体を保護するものを着ける。

クリケットはイギリスで生まれ、野球よりも前に存在していた。野球は投げるときには肘を曲げるが、クリケットは肘を曲げないで遠心力を使って打つ。打球は120M位は飛ぶ。



ポーランドの民族衣装を付けた人形を見せる

◆ 韓国
う踊りがある。日本の代表的な踊りである盆踊りは、一人で踊るが、これは二人で踊る。これから教えるので皆さんやってみましょう。

◆ 韓国

○言語 韓国語は、日本語と似ている言葉がある。カバンがカバン、約束が約束等。語順も同じなので習いやすかった。

○夢 大学の先生になること。異文化マネジメントを教え、グローバルな人間になるようにしていきたい。世界の中で活躍する人を育てていきたい。皆さんとレベルが急に上がり、難しかった。高校のときトルコへ行って勉強したいと思った。

○衣服 日本は着物やゆかたが代表的であるが、普段はあまり見ない。パキスタンの伝統的な衣装を着てみましょう。

○夢 大学の先生になること。日本で勉強をしてパキスタンに帰り、学生に教えて日本のように国にするのが私の仕事である。

○衣装 民族衣装を着けた人形を見てください。

○文化 ポロネーズとい



「夢に向かって努力していきましょう」と熱く語る

○言語 韓国語は、日本語と似ている言葉がある。カバンがカバン、約束が約束等。語順も同じなので習いやすかった。

◆ 韓国

う踊りがある。日本の代表的な踊りである盆踊りは、一人で踊るが、これは二人で踊る。これから教えるので皆さんやってみましょう。

○夢 大学の先生になること。異文化マネジメントを教え、グローバルな人間になるようにしていきたい。世界の中で活躍する人を育てていきたい。皆さんとレベルが急に上がり、難しかった。高校のときトルコへ行って勉強したいと思った。

○衣服 日本は着物やゆかたが代表的であるが、普段はあまり見ない。パキスタンの伝統的な衣装を着てみましょう。

○夢 大学の先生になること。日本で勉強をしてパキスタンに帰り、学生に教えて日本のように国にするのが私の仕事である。

○衣装 民族衣装を着けた人形を見てください。

○文化 ポロネーズとい

11月研修会・委員会等予定	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
	1 土	府中の教育を語る会	生涯学習センター	「理科教育の充実」研究発表・公開実験・パネル討論
	6 木	食育推進委員会	市内学校	研究授業・協議
	10 月	生活指導主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	10 月	特別支援学級代表者会	教育センター	代表者会・分科会
	11 火	職場体験事業実行委員会	教育センター	全体会(連絡・協議)
	11 火	学校図書館推進委員会	教育センター	全体会(連絡・協議)
	18 火	初任者等研修会	本宿小学校	研究授業・協議
	18 火	進路指導主任会	教育センター	全体会(連絡・協議)
	25 火	主幹教諭研修会	教育センター	講義・演習
	25 火	食育推進委員会	市内学校	研究授業・協議
	27 木	教務主任会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)小・中分科会
	28 金	人権教育推進委員会	教育センター	全体会(連絡・検討事項)各分科会

道徳の時間は、昭和33年8月に告示された学習指導要領で設置された。半世紀を経た今、豊かな心の育成に向けた一層の充実への歩みが始まる。これから道徳教育を実施するにあたって、まず考えるべきは、道徳教育をどうすめるかという方向を示す全体計画の作成である。本年3月に告示された学習指導要領では、「指導計画の作成と内容の取扱い」において、全体計画に位置付けるべき必須のことがらとして、①児童生徒・学校及び地域の実態の考慮、②学校の道徳教育の重点目標の設定、③道徳の内容との関連を踏まえた各教科等における指導の内容及び時期、④家庭との連携の方法の四点が示された。

今回の改訂では、指導の「内容及び時期」が新たに加えられ、全体計画をより具体的にすることが求められている。まず、自校にはどのような課題があり、どんな教育に力を注ぐのか、その方針や特色が見える計画とし、学校の方針や特色を明確に織り込むことが大切である。例えば、本校は「生命を尊重する心をはぐくむ教育」を重視している、「人も自分も大にすることを柱とする道徳教育」を進めている、などと明確なテーマを設定し、学校の主張を前面に押し出した計画となるようになることである。



これからの道徳教育



府中第五中学校では、本年9月を生命尊重月間とし、五回に渡って「生命」を考える授業を実施した。道徳授業地区公開講座もこの期間に位置付け、生徒・保護者・地域の方が一緒に生命についての講演を聴く機会として、命の大切さについての考え方を共有していた。府中第五中学校の実践は、学校としての方向がより明確に生徒や保護者・地域に伝わる取り組みである。

まずは、学校として子どもたちの心をどうはぐくむか、知恵を絞つて検討することから始めた。その中で、家庭や地域に発信していくもののが生み出されるはずである。新しい学習指導要領が告示された今、魅力ある計画づくりのチャンス到来である。

(指導主事 国富 尊)

みんなで「合宿」しませんか?

生涯学習センター 山村仁志

府中市生涯学習センターは、

学習、スポーツのために、実際に充実した設備を備えている。

修室や講堂はもちろん、音楽室、

小ホール、パソコン学習室、陶芸室、版画室、写真室などもあ

り、2階には図書館と自習室、

体育棟には、体育館、温水プー

ル、そしてトレーニングルームまで揃っている。

平成5年にオープンして以来、毎年45万人を超える市民に利用され、学習、発表、交流の場として愛されてきた。今年で15年

目を迎える、「学び返し」を基本理念に新たなスタートに向けて準備を整えているところである。

本センターの特色は、全国でも珍しい宿泊施設付きの総合的な社会教育施設だということに

ある。市民なら、大人1600円、中学生以下800円でホテルのようにきれいな部屋に気軽に泊まれる。学習、スポーツの合宿施設として、土日や夏休みなどには多く利用されている。

しかし、冬場や平日に関しては、かなり空きがある。クラブ、同窓会、PTAの研修等に最適な環境なので、是非利用していただきたい。

学びの窓

あとがき

過日、テレビの番組で紹介されていた福井県の永平寺中学校では、登校の時に生徒が、正門で立ち止まり、一礼をしてから入る。下校の時にも正門で立ち止まり、一礼をしてから帰る◆掃除の時間も始まる前に廊下に一列に並び、正座をして心を落ちさせる。終了後もまた正座をして反省をする◆礼儀の大切さや世話をした人や物に対する感謝の念をはぐくんでいる。名刹の町だからという地域性もあるが、それでも教育の力とは偉大なものだと改めて感心した◆先日は、府中第七中学校で国際交流があった。ボーランド人の留学生が、授業が始まると、生徒一人一人と握手をして挨拶をした。終わると「よい挨拶には、二つのことがあります。相手の目を見て挨拶することと、もう一つは、笑顔です」と教えた◆「挨拶を交わす」という。挨拶は一方通行ではなく、互いに交わすものである。挨拶から言葉へと発展し、知人から友人へ、友人から親友へと関係は深まる。国際交流の大変な点であるコミュニケーションの図り方のよい体験ができた。(横山洋)